

## 令和5年度第3回狭山市公民館運営審議会会議録

開催日時 令和6年3月15日(金) 午後2時から午後3時40分  
開催場所 狭山市立中央公民館 第1ホール  
出席者 田口委員長、横江委員、前原委員、小熊委員、大井川委員、小林委員、  
吉野委員、折居委員、河口委員  
欠席者 野口副委員長、工藤委員、早川委員、高橋委員、平野委員、尾崎委員  
教育委員会 内藤生涯学習部長、關根生涯学習部次長公民館統括教育総務課長兼務、  
石井社会教育課長  
公民館 中野中央公民館長、高取富士見公民館長、田中入曾公民館長、池之谷水  
野公民館長、市之川堀兼公民館長、宮崎狭山台公民館長、北田新狭山公  
民館長、村上奥富公民館長、田中柏原公民館長、須藤広瀬公民館長、三  
浦水富公民館長、吉田中央公民館副館長、平沼中央公民館主査  
傍聴者 なし

### 1 開 会

### 2 委員長、教育長あいさつ

### 3 議 事

#### (1) 令和6年度公民館事業の概要について

資料に基づき事務局から説明

#### (主な質疑)

委員長 予算が増えている理由は。

事務局 コロナ禍が明け、利用者の活動が活発になってきている。講座もそ  
れに合わせて企画を実施しているため、予算が増加している。

#### (2) 令和6年度狭山市公民館基本方針・重点目標(案)について

資料に基づき事務局から説明

#### (主な質疑)

委員 基本方針・重点目標は、ここ数年大きな変化はないと思う。

これは、社会教育施設としての責任を果たすため、法律等に基づき  
実施するので、大きく変える必要はないと思う。

時代の変化やコロナ禍も明けて、社会は以前と同じような通常の社  
会活動に戻っていると思いますので、この後の具体的な各公民館の方  
針に期待していきたい。

#### (3) 令和6年度各公民館重点目標及び事業計画(案)について

資料に基づき事務局から説明

(主な質疑)

委員 多くの公民館が空いている部屋を開放して子どもたちの学習スペースにする事業を実施している。

事業計画に載せていない館は、取り上げる事業でないから載せていないのか、実施していないのか。

また、事業を実施している館は、コロナ禍が明けて子どもの出入りが多くなったと思うが、利用状況は。

事務局 中央公民館は空いている施設を「独習」という事業名で学習場所として開放している。

利用者は高校生が多い。夏休みなどは中学生も来ている。多い日で5・6人利用している。

中央図書館がいっぱいの際に来ているという話を聞いている。

引き続き、学習の場として、また、若い人たちに公民館という場を知っていただく機会として取り組んでいく。

事業計画に記載していない公民館については、通年ではなく、夏休みの宿題をするため小中学生が来ている。このような形で各公民館において、敷居を低くして地域のお子さんたちにも公民館を知ってもらう取り組みを実施している。

委員 私はここから見ると橋の向こう側に住んでいる。学校が終わった後に通う塾なども多くない。塾に行くことがいいと言っているのではなく、行く人と行かない人がいる。行かない人にとっては公民館など、自分の家以外で学習ができる場所が必要だと思う。

お母さんは自分の家で見ているとイライラする。親に監視され過ぎてもできないし、監視されなくてもできない。その中間の存在が必要だと思うので、今後も実施していただきたい。

委員 公民館使用料免除登録審査をさせていただいた時に、伝統芸能の活動を行っている団体があった。伝統芸能は地域によってあるところとないところがある。私は狭山市出身だが狭山市の伝統芸能を知らない。

せっかく、伝統芸能があるのだから、それを市内の子どもたちに知ってもらうために、違う公民館に行って発表していただくのもいいのではないか。

事務局 3月第1週目に市民会館でお囃子や足踊りなど市内の4団体をお呼びして発表会を実施している。

茶の里ウォーキングなど、皆さんの目に留まるようなイベントで発表してもらっている。

奥富公民館や柏原公民館などでは、文化祭等の場で発表を行っていただいている。

後継者不足が問題になっており、これから少しでも民俗芸能を皆さんに知ってもらえるよう、公民館と協力していきたい。

来年度、博物館で民俗芸能に関する事業を予定している。

事務局 入曽公民館では、げんキッズ事業として地区内の小学生を対象に体験学習を通じて、交流、仲間づくりの促進を図る中で、入曽の獅子舞やお囃子などの体験を実施している、

来年度、入曽まちづくり事業で地域の伝統芸能を披露する事業の実行委員会ができ、4月には地域内特別養護老人ホームの施設を利用し、笑って繋がろう地域芸能という名称で、お囃子などの発表を行う予定。

委員 その地域のお子さんは参加しやすいと思うが、私の住んでいる狭山台は伝統芸能がないので、ふるさと祭りに参加してもらうなど、お子さんにこういうのがあると、小さい時に見ておかないと一生見ないで終わってしまうと思うので、そういう機会があればいいと思う。

事務局 新狭山公民館では、今年度お囃子体験講座を実施する。

新狭山も新しい地区なので、伝統芸能からは遠ざかっているが、堀兼で活動されている団体の方が、新狭山公民館のサークルの所属しており、後継者不足もあり、体験講座を実施してほしいという依頼があり、春休み期間に体験講座を実施する予定。

現在 10 名を超える申し込みがある。

委員長 わくわくするような事業が多くある。広報で伝えるのは難しいので、水富公民館で実施しているフェイスブックやインスタグラムが有効だと思うので、他の公民館にもお願いしたい。

各委員も積極的にいろいろな公民館の事業に参加してもらい、いろんな方に伝えてもらいたい。口コミは効果的なので、お願いしたい。

委員 世代間の交流事業を考えているが、小学生までは大人と交流があるが、本当は中学生・高校生・大学生と繋いで行きたい。

どういう事業を実施したらいいのか毎年悩んでいるが、いい事例はないか。

事務局 柏原公民館では、事業を展開する上で、地元と協力していただいている事を目玉にしている。

体育祭や自治会の夏祭りを実施する際、中学生のボランティアに参加していただき、テントの設営や駐車場の誘導などをやってもらっている。

また、防災教室を開催し、中学生が炊き出し訓練など、裏方として参加してもらった。

区域内に西武文理大学があり、その学生にも講座の一部を自主的に担っていただいているなど、地域一丸となって講座等を実施している。

防災教室は小学生対象だが、参加者に対し、小学生は今、教えても

らっている側。中学生になったら教えてもらったのを自分たちが出来ることをやってみよう。高校生・大学生になったら自分たちで考えてできることをやろう。最後は消防団に入って地元の防災力向上に協力しようとしている。

委員 事業計画で保育付きの事業があると思うが、大事な事なので、子育て世代の方に公民館に来ていただきたいと思うので、引き続き実施してもらいたい。

- (4) 令和5年度公民館等利用者アンケート調査結果について  
資料に基づき事務局から説明  
(質疑なし)

#### 4 その他

委員 アンケート調査について、概ね8割程度満足をいただいている。これは、非常に高い数字だと思う。

これは、各館の努力以外のなにものでもない。特色のある取り組み、バリエーション豊か。

地元は堀兼だが、堀兼公民館は本当に一生懸命やっていて、公民館職員の皆さんの努力が如実に出ている。

子ども達にとって、地元の公民館は大好きな場所であって欲しいなと思う。これが一番の願い。

学校でもない、家庭でもない、第3の居場所が公民館であると、子どもにとっては救いの場にもなるし、勉強に集中できたり、居場所になる。

どうしたら子ども達がさらに好きになってくれるか。それには発信が重要だと思う。今まで以上に発信という事を公民館長に意識してもらいたい。

今年は狭山市制70周年です。ちょうど70周年という区切りのいいものを冠に付けて、「みんな集まれ公民館」「イベントわくわく公民館」など、キャッチコピーを考えて子どもが行きやすい、面白そうだなというPRを行っていただければ、今まで以上に公民館に行かなかった子どもたちも足を運んでくれるのではないかと思う。

小学生は比較的公民館に来るけれども、中学生はあまりという話が先ほどあったが、堀兼公民館でいうと、地域の体育祭やふるさと祭りなどのイベントに堀兼中学校の生徒に声を掛けると、中学生が30人以上集まる。非常に一生懸命テントを設営したり、いろいろな事を自主的にやってくれる。それは、先生達も見守る。そうすると、普段学校では見ない姿を見せる子がいます。

学校の先生達にとっても新たな子どもの姿を発見する機会でもあるので、そういう意味では公民館には学校と違う役割があることを感じている。

広瀬公民館のイベントで広瀬小学校の特別支援学級の子ども達を公民館に招いて、子ども達が日ごろ創作したコースターなどを展示していて、それが素晴らしかった。子ども達は最後気に入ったものを上げますという事をしており、どれか一つと言われたので、迷いに迷って一輪挿しを頂いた。先生がおっしゃるには、あの子のああいう姿は初めて見た。学校では内向的で人とかかわるのは苦手な子だったが、一生懸命お客さんと接する姿を見てびっくりした。そのような先生方の声もあったので、学校では見せない姿を公民館や地域で見せるということもあるので、市政70周年を子どもを呼び込む、魅力ある公民館としてPRしていただければ、子ども達が地域を大好きになるのではないかと感じる。

PRはなかなか難しいが、紙ベースのチラシが効果あると思う。SNSを併用しながら、子どもが飛びつくようなものを、夏休み前に配るといい。

滝嶋教育長は毎月1回小中学校の校長会に必ず出られるので、教育長をプッシュして公民館のイベント学校から子ども達に伝えてもらえると、効果があると思う。

狭山市の公民館は素晴らしい取り組みを行っているので、次代を担う子ども達に公民館の魅力をアピールしてもらおうと、大人になったときに、公民館はこんなことやっていたよと話せば、次の代に伝わっていくと思うので、そのような視点で70周年を結び付けて取り組んでいただけたら、今年の事業計画がさらに充実するのではないかとと思う。

- ・ 公共施設管理計画について
- ・ 社会教育課に関する事業の紹介
  - ・ 博物館春季企画展「狭山市植物図鑑展」
  - ・ 生涯学習フェスティバル 軽スポーツ体験